

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



穴山町ふれあいのホール 新年イルミネーション

「郷土愛を育み

子どもたちが

輝く穴山町」をめざして



穴山公民館長

嶋津 與徳

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、社会福祉法人信和会におかれましては、創立30年を迎えられましたこと誠に喜ばしく、心からお慶び申し上げます。

30年前、緑と自然に恵まれ風光明媚な穴山町に、東京都の知的障害者の施設として誕生して以来、総合的地域福祉のみならず、地域社会活動の先頭に立って活躍されていることにに対し感謝と敬意を表します。

わが国の公民館制度が提唱されたのは、戦後の1946（昭和21）年7月5日、「公民館の設置運営について」と題する、文部次官通牒が都道府県知事に発せられた時からあります。公民館は、戦後の復興・再建への原動力となる住民自治を具現化する拠点として整備され、地域住民にとって最も身近な学びの場・交流の場として、人づくり、地域づくりに貢献してきました。又、最近では、公民館はESD（持続可能な開発のための教育：Education for Sustainable Development）を推進する教育機関として、アジアをはじめ諸外国から注目されています。

私は公民館活動に携わって20年あまり、いろいろなことを学ばせていただいております。その一つとして、穴山町を「公民館を中心に魅力的な町にすること」であります。そのためには、区長会、ふれあいホール運営協議会、まちづくり推進協議会、社会福祉協議会穴山支部、社会福祉法人信和会、NPO法人国際ボランティアセンター、緑と大地の会などのご協力により推進できることと、穴山町の底力だと感じています。

最近思うことは、穴山町には三つの力があります。

◎第1は歴史力です。

穴山町ふれあいホールへの道路拡幅に伴う事前の宿尻遺跡発掘調査においては、縄文時代中期～後期初頭まで（約4,500年～4,000年前）の集落の跡（竪穴住居跡13軒）、微笑みの土偶などが発掘されています。戦国時代の能見城跡、中央線穴山スイッチバック駅など、縄文時代から脈々と続く穴山の歴史力です。

又、文部省唱歌「たなばたさま」の作詞者権藤はなよは、「願かけた」で

お宮の石段百五段

蟻の子どもが上ってく

切られたおひげの伸びる様に

願かけませうと言って行く

と詩っています。

はなよの生家の裏山には、御崎神社があります。神社は丁度百段くらいの石段を上がると、頂上に着く程の小高い丘陵の上にあります。この木立に囲まれた静かな場所で、子どもたちは時の経つのも忘れ、日暮れまで遊んでいたでしょう。この風景にも穴山の歴史力を感じます。

◎第2は文化力です。

穴山には多くの偉人達が居ります。峡北地域の教育の父・生山正方、峡北地方に学問を定着させた男・堀秀成、文芸を極めた優しき師匠・伊藤松逯、人一倍の責任感で地域を治めた人・八代駒雄、山梨の経済、政治の礎を築いた男・栗原信近、郷土の教育、経済を高め、文学を愛した地域の指導者・長坂彰、山梨県女子教育の先駆けとなった女性・伊藤うた、など経済・教育・文化の振興発展のために尽力された功績は穴山の文化力の礎です。

◎第3は人間力です。

昭和29年社会体育優良村として、北海道で行われた国民体育大会で全国表彰を受けました。戦後間もない昭和21年、村長・青年団長・役場職員などが中心になり、穴山村体育振興会が発足しました。多くの偉人達が築いた穴山の底力は、昭和・平成と続き、穴山町さくら祭り・たなばた祭り・サンマ祭り・イルミネーション点灯と遺憾なく人間力を発揮しています。

公民館が地域活性化の原動力になるため、町の実情や町民のニーズに応える活動をするとともに、ふるさとの偉人や埋もれている地域の宝を掘り起こし、常に斬新な企画と実践を継続していくことが必要と思います。

そして「また行きたくなる公民館」「郷土愛を育み子どもたちが輝く穴山町」をめざして……



本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議員会報告

- 開催日：平成28年12月 8日（木）
開催場所：古名屋ホテル 会議室
審議事項：第1号議案 定款及び規定等の変更について
第2号議案 事業状況報告
第3号議案 その他



(荒井信子様よりのご寄付)

平成28年度第3回目の理事・評議員会が開催されました。

第1号議案として、社会福祉法人制度改革に伴う定款変更や規定について協議しました。評議員会や評議員の役割の見直しやそれに伴う変更事項などを説明いたしました。理事・評議員の皆様には、直接影響する事案であり確認する質問などにお答えし無事了承していただきました。第2号議案として、わーく穴山の里新規施設建設や主に助成金対象の事業の進捗を報告いたしました。ほぼ計画通りに進捗しており承認いただきました。

<第2号議案の主な内容>

1、わーく穴山の里新規施設建設

- ・西側倉庫（JA所有）の購入も完了し、現行の作業施設と合わせて事業検討を進める。
- ・若宮の旧建設会社施設を賃貸契約し、12月引越し1月事業再開できるよう計画している。
- ・いえプロと設計、監理契約を締結し、施設概要について検討中。
- ・建設までの概ね計画

12月	H29/1月	2月	3月	4月	10月
事業所引越	解体工事(～2月)	開発行為承認	試掘調査結果	本体建設工事開始	施設完成、事業開始

2、穴山の里事業

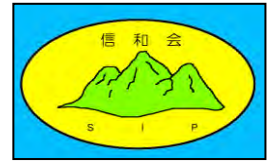
- ・屋上防水改修工事
東京都助成（中規模施設整備費補助） 助成率 50%
10年前に防水工事を実施しているが劣化が進んでおり、東京都担当者にも立会い頂き、申請した。
1000万円以下の中規模事業として東京都の助成申請し、許可された。
事業規模は ほぼ1000万円、500万円補助申請見込み。
入札により土屋工業に決定、契約締結し、12月末より工事開始し2月末終了予定。
- ・防犯カメラ設置事業
東京都助成（相模原事件に関する補正予算助成） 助成率 75%
屋外及び屋内への侵入監視目的で10箇所以上の設置計画。
東京都に助成申請中、1月中には東京都担当者現地確認し、年度内に判定が出て、了承されれば夏までに設置予定。

3、穴山の杜短期入所生活介護事業

- ・介護サポート浴槽購入、設置 労働局職場定着支援助成金 助成率 50%
4月から開所した短期入所生活介護施設に介護サポート型の浴槽がなく、穴山の杜まで車移動し入浴していた。
この浴槽を導入することで、職員の負荷軽減が出来る。
導入金額 約180万円（助成約90万円） 12月に設置し稼働している。

穴山の里だより

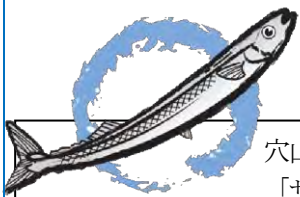
障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
TEL0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



クリスマス会



みなさんが待ちに待っていた、クリスマス会が12/23におこなわれました。楽しい出し物や美味しい、ご飯やケーキを食べ、その後、3人のサンタさんから自分が希望したプレゼントを貰いました。今年最後の心に残るイベントとなりました。



サンマ祭り

穴山町の名物となった「サンマ祭り」が10/15ふれあいホールにておこなわれました。天候にも恵まれ、会場に向かうまでの道のりでは「さんま楽しみだね」「晴れて良かったね」という会話や、笑顔で景色を眺める姿が見られました。さんま、味噌汁、ご飯を各自でもらい「おいしいね」と笑顔で食べ、全員がきれいに完食しました。



赤い羽根共同募金

今年も赤い羽根共同募金を行いました。呼びかけを行いたくさんの募金が集まりました。地域の皆様、施設関係者の皆様今年もご協力ありがとうございました。



収穫祭



10月22日
 毎年恒例の収穫祭が里のグラウンドで行なわれました。
 天候にも恵まれみんなで美味しいお肉やサンマ、野菜などたくさん食べました。
 楽しくおしゃべりしながらゆっくりと食事を楽しみ日頃の疲れを癒しました。



穴山町文化祭



11月8日 今年も穴山町の文化祭に参加しました。
 音楽クラブと安来節愛好会がこの日の為に一生懸命練習を行い発表しました。
 発表ではたくさんの拍手を頂きとても嬉しかったです。
 また地域の人達と触れあう機会となりました

穴山の里文化祭



11月22日 「穴山の里文化祭」が開催されました。
 展示部門では利用者さんと職員が力を合わせたたくさんの作品を作りました。保護者様にも喜んでいただいても嬉しかったです。発表部門では安来節愛好会、音楽クラブが発表しました。失敗せず良い発表をすることが出来て良かったです。

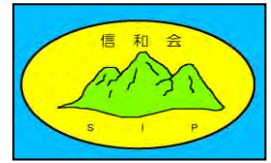
～冬季帰省訓練～

冬季帰省訓練が12/27～1/5までの10日間おこなわれました。
 みなさんとてもいい表情でバスに乗り込んでいきました。
 この貴重な経験が利用者さんひとりひとりの今後の実生活での励みとなれど感じています



穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL 0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



申年から酉年になり酉は縁起のいい干支と言われております
昨年施設開設 10 年の節目を迎えそして更なる新たな第一歩を踏み出しました。
老人福祉に関する話題は種々新聞紙上に賑わしております。施設入所ができない
介護難民、介護人材の慢性的な不足問題など、解決すべき問題がなかなか解消出来
ずにあります。穴山の杜ではこの 10 年間で得られた経験を活かし干支にちなんだ
“取り込む”を念頭に無理・無駄をなくし創意工夫に満ちた活気ある職場づくりを
目指します



両側写真:門松は穴山町山田恭男様よりいただきました

10年目を迎えて

ケアマネージャー 小舟 由理

この一月で十年になります。三年目からケアマネージャーとなり現在に至ります。この間、施設ではユニットケアの充実を図り、おむつ外しの取り組みを行い、ケアマネとしてもご利用者の「その人らしさ」を念頭に置いたケアプランの作成と実現に携わってきました。全て通じるものです。その作成と実現の為には、ご利用者、ご家族、共に働く人達、地域のボランティアの方々まで多くの力添えがなくては成り得ないもので、皆様のおかげで今日があると言えます。また、十年を振り返り思い浮かんだ言葉があります。介護でよく使う「声かけ」ですが、私にも当てはまりました。ご利用者をはじめ、多くの方々からの声かけにより励ましと癒しを頂き、学び、十年があつという間に過ぎた様に思います。皆様から頂いたお力添えと声かけに感謝を申し上げます。これから先も、ご利用者の「その人らしさ」を忘れずに、ケアマネの職務を行うと共に、私からの声かけも温かい気持ちのこもったものである様に努めてまいります。これからも宜しくお願い致します。

都会から山梨へ…

看護師 宮崎奈保子

一昨年の初夏に北杜市に移住し、1年半が経ちました。現在は小さい一軒家をお借りしていますが、四方をカラマツ林に囲まれ動物たちの住処になっている様で鹿や狐・キジ・その他小動物達を見かけることも多く、様々な鳥の音が聞こえる自然豊かな環境で住まわせていただいています。元々自然豊かな場所で住みたいと考えていましたが、移住する大きなきっかけとなったのは東日本大震災でした。

その当時は東京のマンション住まいで、周囲も大型マンションが立ち並び災害時の避難場所としての公園は整備されていましたが、全世帯が避難出来るほどの収容は困難な状況でした。地震による大きな被害はなかったものの、人々の地震に対する恐怖心が広がり、物資の買い占めが起り食料や日用品が品薄になった事を覚えています。平和で便利な生活が当たり前のもではなかったのだという事を実感した経験です。それから、改めて毎日の生活を見直してみると、インフラや食料の調達など生活を支えているものに対して、供給がストップしてしまえば、たちまち生活が出来なくなってしまい、他人任せで何て不安定な状態にあるのだろうと感じました。そして、地震の2次災害として起こった原発事故。私達の生活の豊かさと便利さを追求した結果開発された原子力発電。その事故により、福島豊かな自然、そこに住んでいる植物・動物・人間達に大変な被害をもたらしている事を知りました。

日本人は、かつて自然との調和を保ち、完全に循環する社会を実現させてきたと聞きます。江戸時代、衣食住、生活の全てにおいてゴミが一切出ないゼロ・エミッションを達成していたそうです。『ゼロ・エミッション』とは、生産や消費に伴って発生する廃棄物をゼロにする事を言います。18世紀に人口が100万人を超えた都市は江戸だけで、当時ロンドンもパリも100万人を超えていなかったのに、その100万人を超える都市、江戸が唯一循環型社会を成功させていたそうです。元々日本には「もったいない」という感性が備わっており、物を大切にしてきた民族です。しかし、仕事や日常生活の忙しさにかまけて簡単で便利なものを追求し、インスタントの時代となってしまいました。私自身も、東京では忙しく仕事をしており時間をお金で解決するような生活がかつては送っていました。金銭で解決するという事は、目の前には見えていないけれど様々なものを犠牲にしているという

事に気が付いた時、もうこれ以上同じ道を進んではいけないと強く感じました。仕事も辞めて住んでいた場所、友人達と離れる決断は簡単ではありませんでしたが、知らなかった事実を知ってしまった後、同じ生活をしてはいけないという思いにかられて北杜市に移住してきました。

現在の住まいから、穴山の杜に出勤する際には、右手に南アルプス、前方に富士山、左手に秩父連峰という車窓から見える美しい風景に自然と顔がほころんできます。また、帰宅時には前方に見える八ヶ岳の懐に帰っていく様な温かい気持ちになります。住まいは標高 900m位の所にありますが、標高 1000mの気圧は胎児が母体の中にいる気圧と同じだと言われています。その居心地の良い温かさを感じるのかもしれませんが、そして、こちらに移住して近隣の方々との関係性も大きく変わりました。移住してきた私達家族に対して、様々な助言や「お裾分け」をくださったり、人の温かさと繋がりを感じます。当初、主人の仕事が見つからないうちは、「お裾分け」によって生活が大変助かっていました。穴山の杜でもお野菜を作っている職員の方々からも、新鮮なお野菜をいただいたり、またその調理方法を教えていただいたりしました。お金ではない本当の豊かさを実感して、今生活しています。

私は看護師という立場にあり、医療以外の様々な民間療法にも興味があつて健康を追求してきました。本来の健康とは、医療が支えるものではなく自身の衣食住に関わる生活習慣によって成り立つものだと思います。新鮮な空気を吸い、新鮮な食材を作った人への感謝をもって頂き、イメージ力を持って意識を高めていく生活をする事が健康への道だと思います。それがこの北杜市では実践できる素晴らしい場所だと実感しています。

冬号とびくす



10月24日 穴山保育園の園児さん達が、タンバリンやトライアングルなどの楽器演奏や手話を使った歌などを披露して下さいました。風船バレータイムでは、カラフルな風船と明るい声、笑顔が飛び交っていました。普段なかなか腕が挙がらない方も、風船が飛んで来ると、自ら手を出して上手に園児さんへ返していました。やはり小さい子のパワーは偉大です。お互い元気に過ごしましょう！

お楽しみ会



12月26日クリスマス食として、にぎり寿司が提供されました。目の前で寿司職人がにぎる、大好きなお寿司に皆さん目を輝かせながら、大きなお口で召し上がり、「とっても美味しい!」「おかわり!」と声も聴かれ、お腹いっぱい大満足!!

クリスマス食



餅つき



12月27日、炊き上げたもち米が臼と杵に投入され、お米の良い香りが漂う中、お餅つきを行いました。101歳になられたご利用者も、他の方がお餅をついているのを見学され、「よ〜し!」と気合を入れ、職員が付き添いながらしっかり立って、お餅目がけて杵を振り降ろされました。美味しいお餅となりました。良いお正月を迎えられました。

ご家族環境整備 奉仕活動のご報告

11月20日、恒例のご家族へお願い致しました環境整備を行いました。25家族34名が参観され、居室・フロアの掃除を皆さま手際の良い仕事ぶりで1時間を有意義に使い、綺麗にさせていただきました。硝子磨き、障子張り、衣類の入れ替え等をしていただいたユニットもありました。また、多くのタオルや雑巾のご寄付もいただきました。ひとえに、ご家族の環境整備への深いご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

ケアマネージャー 小舟 由理

防災訓練



地震を想定した防災訓練を消防署員の方立ち合いの下、施設全体で実施しました。ご利用者にも実際にベランダへ避難する訓練や炊き出しを行い、非常食のα米などを試食しました。終了後に救命処置法をご指導いただきました。大声を出し体力も必要な事ですが、目の前で命の危険が迫っている人に対して、自分が出来る事の1つとしてしっかり身に付ける事が出来ました。

わ〜く穴山の里 共同生活事業所

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
TEL : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp



新年あけましておめでとうございます

その後も地域の社会資源の一つである多機能型事業所として、多くの利用者様や保護者の皆様から愛着を持って親しまれております。

また、昨年度からの取り組みとして「生きる力を身につける」をテーマに掲げ、地域社会で生きるために必要な挨拶やみだしなみ、困った時に相談できる力を育む場所として活用していただいております。

今後も皆様のご協力を頂きながら、利用される皆様のニーズにお応えできるよう、職員一同力を尽くして参りたいと思います。

日頃より当事業所の運営にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

当事業所は平成16年に通所の知的障害者授産施設としてスタートいたしました。

秋から冬にかけてイベント盛りだくさんの季節をすごしました！！



穴山町サンマ祭り(太鼓演奏参加)



日帰り旅行(大井川鉄道SL列車)



地域清掃活動



秋のプチ運動会(穴山の里合同開催)



グループホーム クリスマス会

建て替えならびに仮事業所移転について

この度平成29年度秋を完成予定とし、既存の建物の建て替え工事を行う運びとなりました。

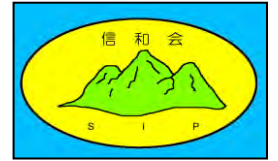
長きにわたり、現建物を活用することができたことをあらためて感謝申し上げます。

工事に伴い、完成までの期間は仮の事業所にて従来通り運営いたしますのでよろしくお願いいたします。

仮事業所への移転期間 平成29年1月～9月 (延長の可能性有り)
仮事業所の連絡先 〒407-0015 山梨県 韮崎市 若宮2丁目3-29
TEL/FAX 0551-30-4090

穴山の杜ショート

穴山の杜 短期入所生活介護事業所
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3
Tel : 0551-25-0800



新しい年を迎えました！！去年以上に羽ばたきたいと思います！！



利用者11名と職員とで初めて年越しをしました。大晦日は意外にも早々に布団へと潜られ、除夜の鐘を聞く頃はすでに夢の中・・・あくまで毎日のペースを崩さない利用者でした。穏やかな元旦を迎え、『おめでとう』との挨拶から始まり、握り寿司のご馳走とお節料理を食べました。その後はコタツに当たりながらカルタや福笑いをして、懐かしい昔を思い出しました。また手作りの絵馬に一人一人願いを書きました。



『今年も皆さんにとって・・・私達にとって・・・
最高の1年になりますように・・・』と祈願しました。

介護サポート浴槽設置

法人だよりも紹介されました様に介護サポート浴槽が設置されました



感謝録

(平成28年9月16日から平成28年12月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

荒井信子・藤田 元・古内保明・川崎武司・大河原 護・葺崎スポーツクラブ (金丸・牛山・平賀)

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

千野公洋 (太鼓)・阿部光雄 (歌謡)・島津泰子・長坂泰子・島津公子・小林秀子・細窪房美・嶋津良子・森岡節子 (歌謡協力)・田中康子 (絵画指導)・足立悦子 (ピアノ演奏)・飯野祐子 (習字講師)・須玉祭友会ジュニアバンド (9名)・ロバとうさぎの会・穴山保育園 (10名)



2011.3.11 東日本大震災 2012.12.7 三陸沖地震
2016.4.12 熊本地震 2016.8 相次ぐ台風上陸
2016.12 新潟大規模火災

皆さんの記憶にも残っている最近の災害です。いつ、何が起こっても不思議ではない日常に対して皆さんはどんな備えをしていますか？

2014年に信和会ではBCP・BRPの一環として安否情報システムを導入致しました。現在は震度3以上の地震に対して自動的に発信し、職員の安否情報を素早く収集する事が出来ます。近年では、スマホ対応のアプリも導入され操作も簡単になってきました。更に、日頃の情報伝達訓練としてアンケート形式を利用することも可能となりました。

何時起こるかかわからない災害に対して利用者・職員・御家族の安否情報がいち早く収集できるように今後も積極的に活用していきます。

早速、アンケートシステムを利用して職員の皆さんに2016年「皆さんの今年の漢字」を12月に募集致しました。結果は・・・

第一位 第二位 第三位

金 変 忙

訪問録

(平成28年9月16日から平成28年12月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎優和福祉専門学校

三澤直也・三井悠季

◎帝京学園短期大学

天野智英・内藤風雅・望月瑠華・石原麻友

◎三幸福祉カレッジ

藤森美沙

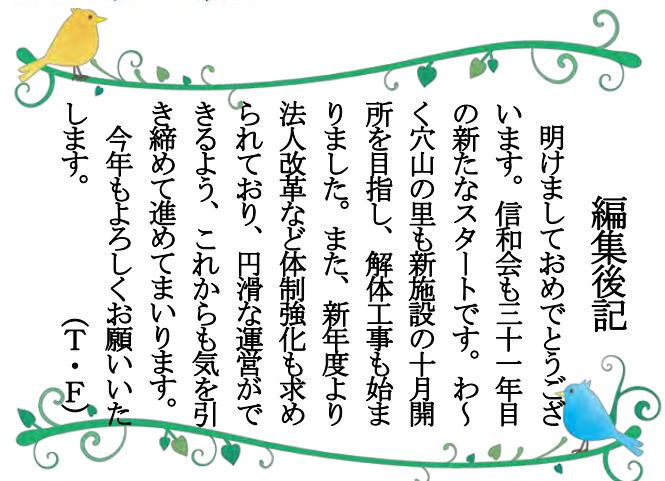
七草よもや話

唐の楚國に、大しうという親孝行者がいた。両親はもう百歳を越し体がままならず、そんな両親を嘆き悲しんだ大しうは、山に入って21日間もの苦行を行い祈願した。そこに天上の帝釈天からお告げがあった。

① 毎年春のはじめに七種の草を食べること
② 1月6日までに7種類の草の集めておくこと
③ 次の時刻に柳で作った器に種を載せ玉椿の枝で炊く
酉の刻から芹 戌の刻から薺 亥の刻から御形子
子の刻から田平子 丑の刻から仏座 寅の刻から菘
卯の刻から清白 辰の刻からこれらの種を合わせ、
東から清水を汲んできて、これを煮て食べること
一口で10歳、七口で70歳若返るので、ついには8000年生きることができよう。大しうはこの教えを繰り返して暗唱すると、この日は正月であったのですぐに山を降りて7種類の草を集め、教えの通り、東から汲んだ水で炊いて両親に食べさせたところ、たちまち若返った



のはいうまでもない。これが世に伝わり、噂を聞いた当時の帝はこの親孝行に感動して位を譲ったすなわち、七草の由来とともに、ここでは親孝行の功德を説いた話だったのである。



編集後記

明けましておめでとございませう。信和会も二十二年目の新たなスタートです。わくわく穴山の里も新施設の十月開所を目指し、解体工事も始まりました。また、新年度より法人改革など体制強化も求められており、円滑な運営ができるよう、これからも気を引き締めて進めてまいります。今年もよろしくお願いたします。(T・E)